

☆ 内田院長新年度のあいさつ ☆



新しい年度になりました。別れもあれば出会いもある、そんな季節です。病院も少しスタッフが入れ替わりがありますが、変わりなく運営しておりますのでよろしくお願いいたします。

さて、ちまたではコロナウイルス騒ぎで大変ですね。トイレットペーパーがなくなったり、コロナ患者が出たと噂になったり、本当か嘘かわからない情報に振り回されています。この不確かな情報について、自分は大丈夫だなんて思ってませんか？ 私自身、今の自分の考えや言葉は本当に自分で考えた内容だろうかと思うことがあります。実は、メディアから入ってきた情報や他人の言葉、意見などに左右され、時には誰かが使ったことをそのまま自分の意見として話していることもあり、はっとさせられます。

私の外来に来られるやまもとさん（仮名）は糖尿病を患っています。ある日の外来で、やけに血液の数値（HbA1c）が高く、明らかに糖尿病が悪化していました。これはどうしたのだろうか、不摂生をしたのか、何か別の病気があるのかなどと心配したところ「いやー、やっぱり駄目でしたか。自分で実験したんです。薬は本当に効いているのかどうか。週刊誌には飲んじゃいけない薬なんてことも書いてあるし。とりあえずこの2か月飲むのをやめてみたんですよね。やっぱり飲まないダメか…」と笑いながら頭をかいていました。やまもとさんのような方は時々おられます。糖尿病や高血圧などといった生活習慣病は、自覚症状がほとんどありません。なので、病気が進行していても気づかないことがほとんどです。

幸いなのは、やまもとさんは薬を飲んでいなかったことを正直にお話しして下さったこと。時には、そのまま薬をやめちゃって病院に来なくなっちゃう人もいます。そういう場合、数年後にとんでもない状態で運ばれて来ることもあります。

新型コロナの流行とやまもとさんには共通点があります。それは、周りに流されずに現状を冷静に受け入れ行動することが大切であるということ。

人間の歴史は感染症と戦争の歴史と言っても過言ではありません。生き残るために薬を飲むわけではありませんが、平和ぼけしていると思われる昨今、自分は大丈夫だと思わず、冷静に自分自身、そして現在の社会を見つめ直すことが大切かもしれませんね。

今回は堅い話になってしまいました。なお、次号から「町立病院だより」は小鹿野町広報の中に掲載されることになりました。引き続き「内田のひとりごと」は続ける予定です。よろしくお願いいたします。



院長 内田 望

☆☆ 医師2名が交代いたしました ☆☆

3月まで勤務していただきました内科医の藤田和樹先生は、4月よりさいたま赤十字病院に異動となりました。同じく内科医の瀬戸那由太先生は、秩父市立病院に異動となりました。

新たに4月より、内科医の曾根健太先生と中村香代子先生が着任されました。おふたりの詳細は、広報おがの5月号で紹介させていただく予定です。

なお、4月からの外来の診療科目につきましては、裏面にご案内させていただきます。

5月より「町立病院だより」は「広報おがの」でお届けします

「町立病院だより」は、令和2年5月号より「広報おがの」に専用ページを設けることになりました。

「毎月、毎戸に定期的にお届けする配布物は広報に掲載する」という町の方針によるものです。

これまで、毎月、町立病院だよりの配付にご助力いただきました区長の皆さま、関係者の皆さまに感謝申し上げます。また、病院等でご覧いただいていた皆さまには、専用ページを印刷したものをお渡しして参ります。今後とも引き続きご愛読いただきますよう、よろしくお願いいたします。